

毎日の着こなしをプロがサポート

パーソナルスタイリストを美容師のような身近な存在に
—ファッションパートナー（東京、小野田史代表）の「スタイリスト」は、スタイリストと一般消費者のマッチングサービス。自宅を訪問し断捨離のサポートやコーディネート提案をする「ワードロープエディット」（WE）、買い物に同行する「ショッピングアテンド」（SA）の二つを提供する。（森口朝美）

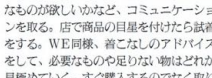
**販売
最前線**



スタイリストの菊地ゆかさんと、普段はどんな服、どんな色を着るのか、今日は何か欲しいかなを話しながら店内を回っている。



店のスタッフとも協力して商品を選ぶのが「スタイリスト」の特徴



たものが取扱いなので、コミュニケーションを取る。店で商品の目星を付けたら試着をする。WE同様、着こなしのアドバイスをして、必要なものや購入しただけで見極めていく。すぐ帰るので、すぐ取り

置きもしながら2軒目、3軒目と店を回る。全て回った後買入物を決める。必要であれば当日1時間単位での延長も出来る。終了後はWEと同じようにスタイリストの情報が、購入した商品に合うコーディネートの提案なども行う。

スリットが入ったニットには試着したボトム以外に何か合うか相談すると、様々な答えが返ってきて参考になった



ファッション好きな人は、振り回された好みだけではなく、新しい一面を見つけるきっかけになるだろう。ファッションに興味がない人、苦手な人はプロのスタイリストに洋服を運んでもらうことが自信につながる。ファッションを好きになるきっかけにもなりそうだ。

プロのノウハウを一般消費者に提供し、スタイリストの仕事の幅を広げたいとスタートした。従来のパーソナルスタイリストよりも、手帳で数回高すぎないサービスを組み立てた。着飾るのではなく、日常着や仕事着の提案がメインだ。買った服の合わせ方が分からず失敗したり、毎日の服選びに手間取って時間を費やすことがないようにサポートする。

サービスはWEから薦めている。クローゼットの中身を精査し、手持ち服を把握することで、合った服や足りない服をSAで補充するから。どちらのサービスも価格は1時間1万円からで、1回につき2〜3時間を推奨している。

手持ちの服で基本の型を見つける

WEはSAがリストを客の家を訪れ、クローゼットの中の服を整理しコーディネートを組み立てる。すぐにコーディネートを組み立てるのではなく、まずは洋服の断捨離をする。普段よく着る服を把握し、着ていない服やダメージの多い服を把握し、

断捨離をしながら客とコミュニケーションを取って、得た情報を元にコーディネートを組み立て、いくつかパターンを見せた後、

実際に客に着てもらって袖をまくったり裾をインしたり、細かな着こなしのアドバイスをする。例えばトレンチコートなら、ベルトを後ろできつめに結び、身頃を開けることでコートから見えるインナーの色とトレンチコート色のバランスが良くなる。

スタイリストはコーディネートした洋服を客が前写真を撮り、サービス終了後に送るレポートに活用する。ここまででおおよそ2時間だ。3時間の場合はプラスして、洋服の整理や収納の方法を提示する。

主にWEでは、客の洋服のパーセックと主な基本の型を提案する。ファッションアップルであったり着飾ることが目的ではない、いずれはスタイリストなしでも、一連の流れを客が一人で出来るように、レポートなどを使って振り返り出来るようにする。

店では足りない服、新しい発見のある服を

SAではリストの客と一緒に買い物をする。場所が客の希望でもスタイリストにお任せでも構わない。買いたいサービスのため、予約や欲しいアイテムも事前に聞く。スタイリストは、どの店を回るか事前に打ち合わせもするという。

持ち合わせをしめて、最近の購入品やどん

ショッピングアテンド体験レポート

実際にSAを体験した。まずはネットでの事前登録と予約をする。予約の際は個人情報と希望のサービス、スタイリストの選択、第3希望までの日時と、今回はSAのため場所の希望も入力した。普段よく買うブランドや身長・体重、欲しいアイテムなども入力する。その後予約確定のメールが届き、事前準備は完了した。

当日、指定された場所で待ち合わせた。今回はスタイリストの菊地ゆかさんにお話をした。店内で普段着る洋服のサイズと色、どんな服が好きかなどについて話しながら商品を見て回った。鏡で商品を見合わせながら、どの色が似合いかけた時の印象とこちらへの希望を合わせて選んでいく。



あまり履かないヒールの靴も選んでもらうことで安心感がある。袖のまくり方など細かなアドバイスも充実

欲しいアイテムで挙げたワンピースとニットを中心にいくつかのアイテムとそのコーディネート提案を提案してもらい、試着へ。洋服だけでなく靴やバッグも合わせる。

一つ目はワンピースとカーディガン。「ドレッシーな印象のワンピースもカーディガンやスニーカーと合わせることで普段使いしやすくなる」と菊地さん。

二つ目はスリットが入ったセーターとパンツ。普段ならグレーも自分で選ばない色で、合わせたパンツも新鮮な印象。「カジュアルなアイテムにはパンツ、ドレッシーなアイテムにはスニーカーがトレンド的にもバランスが取れる」とのこと。

聞いたことはあってもなかなか自分では挑戦しづらかったため、スタイリストに合わせてもらうと安心感がある。普段なら部屋着っぽく見えるグレーのニットも、この組み合わせなら自分には似合う気がする」と発見。

一連のコーディネートを着て、レポートのための写真を撮り、終了。手持ちの服とどんな風に合わせたら良いのかも教えてもらった。